

パーソナルファイナンス学会

JAPF News No.49 2025. 2.25

開催報告

第24回全国大会 対面開催

統一論題

「クレジットビジネスのこれまでとこれから」

開催日：2024年11月30日（土）

会場：早稲田大学国際会議場3F 第一会議室

第24回全国大会対面開催を振り返って

大会委員長

堂下 浩（東京情報大学）

今年度の全国大会は特別な会合となりました。本年におきましては、本学会の立上げに尽力された江夏健一先生や杉江雅彦先生といった名誉会員、さらには本学会の発展に貢献した今井雅和先生や井澤裕司先生がご逝去されました。まずは鬼籍に入られた皆様に謹んで哀悼の意を表し、冒頭に黙とうが捧げられました。同時に出席者にとっては、パーソナルファイナンス分野の研究をさらに昇華させる意義と気概を改めて共有する厳かな場となりました。

さて、今年度の大会では本学会とも関係の深かった早稲田大学クレジットビジネス研究



堂下大会委員長

所が惜しくも終了となるタイミングに併せて、「クレジットビジネスのこれまでとこれから」を統一論題とし、本研究所の研究員の方に、これまでの研究成果を振り返りながら、報告をしていただき、将来の研究方向について議論を深めていきました。具体的には、

- ① 「フィンテック産業黎明期における企業不祥事とその影響」

藤原七重（千葉商科大学）



（右）藤原氏（左）清水さゆり氏（コメンテータ）

- ② 「巨大 IT 企業の金融機関化の影響と展望」
李 立栄（亜細亜大学）

- ③ 「金融教育とナッジ、どちらが有効か」
坂野友昭（早稲田大学）

- ④ 「カスケード構造を呈する消費者金融市場とヤミ金融市場の今後」
堂下 浩（東京情報大学）

という、本研究所が注力的に研究した分野における示唆深い成果報告でした。

また、自由論題としては、大塚茂晃先生（千葉商科大学）から「事業者向け貸金業者の昨今の動向



坂野会長

～貸金業協会アンケート調査を用いて)」、寺尾隆先生（福井大学）らからは「脳科学を活

用した認知バイアスへの介入が金融犯罪防止にもたらす影響」、そして伊藤幸郎先生（東京情報大学）らからは「川崎銀行の設立と終焉に関する研究」という 3 つの報告がなされました。何れの報告もパーソナルファイナンス分野の今後を探る上での知見に富んだ有意義な内容でありました。



自由論題 伊藤氏

以上、今年度の大会は、早稲田大学クレジットビジネス研究所の終了という節目に相応しく、パーソナルファイナンス分野において研究内容の深化と研究対象の広がりやを一段と予感させるプログラムとなりました。本学会を通じた若手会員による先進的な研究成果の更なる発信が引き続き、期待されます。

末筆ですが、今大会の企画・実行に関われた皆様、特に学会事務局、並びに会場の準備と運営に携わりいただきました早稲田大学の坂野友昭先生には深謝を申し上げます。



自由論題 大塚氏

プログラム

- 開会挨拶：坂野友昭（会長／早稲田大学）
- 統一論題「フィンテック産業黎明期における企業不祥事とその影響」
藤原七重（千葉商科大学）
コメンテータ：清水さゆり（高崎経済大学）
- 自由論題（1）「事業者向け貸金業者の昨今の動向～貸金業協会アンケート調査を用いて」
大塚茂晃（千葉商科大学）
コメンテータ：堂下 浩（東京情報大学）
- 自由論題（2）「脳科学を活用した認知バイアスへの介入が金融犯罪防止にもたらす影響」
寺尾 隆（福井大学）、西下慧（株式会社日本総合研究所）、大城武史（株式会社日本総合研究所）、楠富智太（VIE 株式会社）、茨木拓也（VIE 株式会社兼株式会社 NTT データ経営研究所）、村越まひる（株式会社 NTT データ経営研究所）、坂越紀子（SMBC コンシューマーファイナンス株式会社）、竹本拓治（福井大学）
コメンテータ：山野井順一（早稲田大学）
- 会員総会
- 自由論題（3）「川崎銀行の設立と終焉に関する研究」
伊藤幸郎（東京情報大学）、堂下 浩（東京情報大学）、川崎善保（川崎定徳株式会社）
コメンテータ：坂野友昭（早稲田大学）
- 統一論題「巨大 IT 企業の金融機関化の影響と展望」
李 立栄（亜細亜大学）
コメンテータ：趙 彤（徳島大学）
- 統一論題「金融教育とナッジ、どちらが有効か」
坂野友昭（早稲田大学）
コメンテータ：大谷和海（関西大学 高等部）
- 統一論題「カスケード構造を呈する消費者金融市場とヤミ金融市場の今後」
堂下 浩（東京情報大学）
コメンテータ：坂野友昭（早稲田大学）
- 閉会挨拶：竹本拓治（福井大学）

※終了後懇親会開催

開催報告

2024 年度 第 2 回 西部部会

開催日時：2 月 8 日（土）14：30-17：00
会場：京都大学 吉田キャンパス総合研究 2 号館（3 階南）大演習室 2

西部部会開催報告

西部部会長
竹本 拓治（福井大学）

2025 年 2 月 8 日（土）、京都大学吉田キャンパスにて 2024 年度第 2 回パーソナルファイナンス学会西部部会が開催されました。本部会では、金融教育の成果分析、協同組合のファイナンス、行動経済学を活用した詐欺被害防止の取り組みが報告され、活発な議論が交わされました。

最初の報告では、大阪国際大学の村上敬進氏と SMBC コンシューマーファイナンスの林田崇氏が、「今後の学習意向に注目した金融教育の成果検証」について発表しました。金融教育の成果を教える側の視点から分析し、受講生の非合理的特徴（現在バイアスや主観的機会費用）が授業の理解度や今後の学習意向に与える影響を CS 分析により明らかにしています。特に、教師との関係性が受講者の積極的な学習姿勢を促す要因となることが示唆されました。



村上氏、林田氏による報告

次に、京友禅協同組合連合会の中泉康人氏が、「協同組合組織のあり方とファイナンス」について発表しました。京都の伝統産業を支える協同組合の役割と財源確保の手法について、京都紋章工芸組合の事例をもとに考察を行っています。協同組合の運営は、賦課金や補助金、不動産賃貸などの収益事業を通じて支えられており、中小企業の経済的地位向上に貢献していることが示されました。



石原氏による報告

最後に、「ナッジ理論とゲーミフィケーションを用いた SNS 型詐欺被害防止啓発ポスターの作成」について発表されました。福井大学の 1 研究室が福井県警と連携し、学生がナッジ理論やゲーミフィケーションを活用して詐欺被害防止の啓発ポスターを制作する教育プログラムを実施した様子を福井大学の石原周太郎氏が代表して報告しています。取り組みの結果、学生の理解が深まり、実際に採用されるポスターが生まれるなど、金融リテラシー向上における新たな教育手法の可能性が示されました。

閉会後の懇親会では、発表者と参加者が意見を交わし、今後の研究発展や共同研究の可能性について議論が行われました。今回の西部部会では、教育、組織運営、行動経済学という多角的な視点から金融に関する議論が深まり、金融リテラシー向上に向けた有意義な知見が得られました。

プログラム

○開会挨拶：坂野友昭（会長／早稲田大学）

○報告（1）「今後の学習意向に注目した金融教育の成果検証—受講者の非合理的特徴と教師の授業改善の視点から—」

村上敬進（大阪国際大学）、林田崇（SMB C コンシューマーファイナンス株式会社）

○報告（2）「協同組合組織のあり方とファイナンス—組合組織の存在意義と事業例（京都紋章工芸組合を中心に）—」

中泉康人（京友禅協同組合連合会）

○報告（3）「ナッジ理論とゲーミフィケーションを用いた SNS 型詐欺被害防止啓発ポスターの作成—福井大学における行動経済学教育の実践報告—」

石原周太郎、寺尾隆、鈴木梓、竹本拓治（福井大学）

○閉会挨拶：竹本拓治（西部部会長／福井大学）

※終了後に懇親会を開催

西部部会での発表を終えて

中泉 康人
（京友禅協同組合連合会）

この度、「協同組合組織のあり方とファイナンス—組合組織の存在意義と事業例（京都紋章工芸協同組合を中心に）—」という内容で、報告させていただきました。協同組合の事業例を通じてファイナンスの問題も考えるという報告内容でした。そこには、「伝統と革新」「自主的・主体的」というテーマも内在していました。

本報告に際しまして、京都紋章工芸協同組合理事長地主成利先生にも登壇いただき、報告とコメントも頂きました。大変貴重な資料や知識などもいただきまして感謝いたしております。

昨今、着物文化のまち京都でさえ、和装が日常から姿を消し、礼装としての紋付姿もあ

まりみられなくなった現状のなか、事業者単体ではなかなか困難である事業を、歴史ある組合の事業を例に報告させていただき協同組合としての存在意義・重要性をアピールいたしました。京都紋章工芸協同組合の創立70周年に当たり、『平安紋鑑・もんきりあそび』を発行、紋章の美しさ、図形など数学的なもの、紋章の日本の歴史とどう関わってきたか、などを学び、実際に手作業で体験出来る教材として教育現場などでの活用を目指す事業。併せてみやこめっせふれあい館イベントホールにて式典ならびにイベント、出前授業の実施により紋章のPRを行う事業。また、『平安紋鑑』の出版の事業。などをご紹介させていただきました。



中泉氏による報告

本学会立ち上げ当初に、グループにて研究成果を『庶民金融論—消費者金融を理解するために—』片山隆男・神木良三・杉江雅彦 編 萌書房（2005/05/01）という出版物であらわし皆さんと大変有意義な時間を過ごせたことは、記憶に鮮明です。「学問」に対するおもしろさ（scholarship）が湧き出てきます。論語の一節『子曰く、学びて時に之を習う、亦た説ばしからずや。朋有り、遠方より来たる、亦た樂しからずや。人知らずして慍おらず、亦た君子ならずや。（学而篇）』を思い出しました。

今回その思いが繋がり、さらなる研鑽に励みたいとの節目になる京都大学での報告とも

なりました。今回は、研究論文や成果物とまではいきませんが、ひとまず感想にてご報告させていただきます。この度の報告の機会をくださいました、本学会会長坂野先生、西部部会会長竹本先生に改めて感謝いたします。

2024 年度研究奨励賞決定

論文 “DOES THE USE OF COMMUNITY CURRENCY CHANGE PAIN OF PAYING AND WILLINGNESS TO PAY?”

IJCCR(International Journal of Community Currency Research)vol.27, pp.21-32.

Takushi Omuro
Institute of Current Business Studies,
Showa Women's University, Japan

学会賞委員会において、厳正な審査の結果、上記の通り、“DOES THE USE OF COMMUNITY CURRENCY CHANGE PAIN OF PAYING AND WILLINGNESS TO PAY?”が研究奨励賞に決定いたしました。学会賞の該当作はございません。

講 評

学会賞委員会 委員長
前田 真一郎（九州大学経済学研究院）

本論文は、2000 件以上ものデータを収集し、消費者マーケティング領域での研究手法を応用して、地域通貨に関する仮説を検証した論文である。具体的には、地域通貨における「利用可能な地域の限定」および「地域活性化目的の提示」が、消費者の「支払意思額」および「支払の痛み」に与える影響を実証的に分析している。支払手段の違いが支払意思額および支払の痛みに与える影響に関する先行研究は多くあるが、地域通貨の特性が与える影響について大量サンプルを用いて実証的

に分析した論文はこれまでにないと思われる。消費者マーケティングの新たな知見や分析手法を最大限に活用しつつ、地域通貨についても新たな知識を発見しようとするものであり、その意欲的な取り組みは高く評価される。

著者は、地域通貨に関して 6 つの仮説を立てている。分析の結果、確認できた仮説はそのうちの一部であった。それは、地域活性化の目的が示された地域通貨は、目的を示されていない地域通貨に比べて支払の痛みが小さく感じるということである。このように 6 つの仮説のうち、一部が部分的に支持されたのみであるが、仮説が支持されなかったことの発見も実証的な貢献である。一方で、本論文の限界でも述べられているように、「利用可能な地域の限定」および「地域活性化目的の明示」が支払意思額に有意な影響を与えていないということは、「支払の痛み」以外の媒介変数や何らかのモデレータ変数が存在する可能性を示唆している。また部分的に支持された仮説に関しても、高価格帯の商品に関しては、「地域活性化目的の明示」は「支払の痛み」を有意に軽減していない。この違いはどこに起因するのか。理論的にも実証的にも解明すべき問題はまだまだ残っており、さらなる研究の発展が期待される。今後は、当学会での発表や『パーソナルファイナンス研究』への投稿などによって研究の発展を期待する。

受賞のことば

尾室 拓史
(昭和女子大学現代ビジネス研究所)

この度は、栄誉ある賞をいただき、大変嬉しく思います。私は普段、ある金融系の業界団体で働きながら、昭和女子大学の研究員として、決済やキャッシュレスに関わる研究を進めています。これまでに複数のテーマで論文を刊行してきましたが、近年日本で盛んな

地域通貨についても扱ってみたいと考え、受賞の対象となった論文「DOES THE USE OF COMMUNITY CURRENCY CHANGE PAIN OF PAYING AND WILLINGNESS TO PAY?」を執筆しました。地域通貨についての研究はこれまで多くありますが、地域通貨を利用した際の支払の痛みや支払意思額の変化といった、基礎的な消費者行動への影響については検討されることが少なかったことから、研究を進めることにしました。

直接関係のない話になり恐縮ですが、私は、パリや東京でミシュラン三ツ星を取ろうと奮闘するシェフ（尾花夏樹）の物語であるドラマ「グランメゾン・東京」の大ファンです。特に、そのシェフが、新たな料理で世界を感動させていく姿に感銘を受けており、私も、尾花夏樹の料理のように、新たな視点を提供して世界を感動させられる、そんな論文を書きたいと思いながら、日々努力しています。この度の受賞は、そうした私の研究活動に対する大きな励みとなりました。

最後になりますが、前田真一郎委員長はじめ、賞の選考に関わられた皆様、そして、日々の研究活動を支えていただいている昭和女子大学現代ビジネス研究所の皆様に、この場をお借りして、心より感謝申し上げます。

坂野友昭教授ご退職記念 第29回産研アカデミック・フォーラム開催の お知らせ

「経営学研究の軌跡と展望」

日時：2025年3月15日(土)14時から17時

会場：早稲田大学3号館602教室

主催：早稲田大学産業経営研究所

定員：200人（定員に達し次第締め切り）

*どなたでもご聴講いただけます。（聴講無料）

参加申し込みサイト：

<https://www.waseda.jp/fcom/riba/>

（早稲田大学産業経営研究所 Web サイト）

申込締切：2025年3月6日（木）17：00迄

司会・コーディネーター：山野井順一（早稲田大学）

【プログラム】

司会挨拶 山野井順一（早稲田大学）

開会の辞 矢後和彦（早稲田大学／産業経営研究所所長）

○講演（各40分）

1. 「組織論研究の軌跡と展望」

三橋 平（早稲田大学）

2. 「戦略論研究における経営者への焦点の変遷」

山野井 順一（早稲田大学）

3. 「グローバルゼーションの行方」

牧野 成史（京都大学）

○総括とパネルディスカッション（30分）

司会：坂野友昭（早稲田大学）

閉会の辞 坂野友昭（早稲田大学）

早稲田大学商学大学院・坂野友昭教授退職記念
第29回 産研アカデミック・フォーラム

経営学研究の軌跡と展望

日時：2025年3月15日（土）14：00～17：00
会場：早稲田大学3号館602教室
主催：早稲田大学産業経営研究所

コーディネーター/司会：山野井 順一（早稲田大学商学大学院 准教授）


プログラム

○司会挨拶 山野井 順一（早稲田大学商学大学院 准教授）
○開会の辞 矢後 和彦（産業経営研究所 所長／早稲田大学商学大学院 教授）
○講演（各40分）
1. 「組織論研究の軌跡と展望」
三橋 平（早稲田大学商学大学院 教授）
2. 「戦略論研究における経営者への焦点の変遷」
山野井 順一（早稲田大学商学大学院 准教授）
3. 「グローバルゼーションの行方」
牧野 成史（京都大学経済学研究所 教授）
○総括とパネルディスカッション（30分）
司会：坂野 友昭（早稲田大学商学大学院 教授）
○閉会の辞 坂野 友昭（早稲田大学商学大学院 教授）

定員：200人（定員に達し次第締め切り）
聴講を希望の方は、早稲田大学産業経営研究所Webサイト <https://www.waseda.jp/fcom/riba/>
またはQRコードから申請フォームにご入力ください。

申込締切：2025年3月6日（木）17：00まで
対象：学生・教職員・一般。どなたでも聴講頂けます。聴講無料。

早稲田大学産業経営研究所
〒169-8050 東京都新宿区高早稲田1-6-1 早稲田キャンパス11号館3階
TEL: 03-3203-9857 E-mail: riba@list.waseda.jp



第29回産研アカデミック・フォーラム チラシ

追悼

当学会名誉会員の杉江雅彦先生（同志社大学名誉教授）が2024年6月30日に、初代会長であり名誉会員の江夏健一先生（早稲田大学名誉教授）が同年10月29日にご逝去されました。学会創設時より多大にご貢献いただいた両先生方に深く感謝申し上げるとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。各先生方に縁の深い会員より代表して追悼文を掲載させていただきます。

江夏 健一先生を偲んで

佐藤 幸志（拓殖大学）

本学会（旧消費者金融サービス研究学会）の設立に尽力され、初代会長を務められた江夏健一早稲田大学名誉教授が、2024年10月29日、87歳でご逝去されました。

学会員の皆さまの中にもご存じの方が多いかと思いますが、先生の専門は国際ビジネス研究です。海外直接投資や多国籍企業にいち早く着目され、日本におけるこの学問分野の創生と確立に多大な貢献を果たし、1989年には、現在この分野で日本最大の国際ビジネス研究学会を設立されました。

そのような先生が、本学会の主たる研究対象である無担保・無保証の個人向け融資ビジネスにいち早く関心を寄せられたのは、1979年のことです。アメリカ・カナダの消費者金融産業や個人信用情報機関の視察にコーディネーターとして同行したことをきっかけに、ニュービジネスとしての消費者金融サービスの可能性を認識されました。その後、業界誌を中心に、経済・ビジネスの学術的知見を活

かした論考を多数寄稿され、それらは1996年に出版された『現代クレジット社会を考える』にまとめられています。その後も、消費者金融サービスに関する論考や著書を数多く発表し、研究を深めていかれました。

本学会設立以前、消費者金融業界は7兆円以上の市場規模に成長していたにもかかわらず、学術的な研究対象とはみなされていませんでした。しかし、出資法の上限金利引き下げなどの政府規制、グローバル化、ボーダーレス化、IT化の波が押し寄せるなかで、業界の健全な発展には多面的な研究に基づく学問としての確立が不可欠であると先生は考えました。2000年3月、総勢23名の発起人で本学会を設立し、初代会長に就任されました。

ひとつの分野で大きな業績を残すことさえ容易ではないなか、先生はまさに「二足の草鞋」を見事に成し遂げ、各学問分野を代表する学会を設立するという偉業を達成されました。本学会の誕生も、先生なしにはあり得なかったか、あるいはずっと後になっていたのではと思われます。

先生の多大な貢献に心から感謝するとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

杉江 雅彦先生を偲んで

竹本 拓治（福井大学）

杉江雅彦先生との出会いは、私が同志社大

学大学院の修士1年生だった1997年に遡ります。事前の相談もなく、別研究科で開講されていた先生の証券論特講に飛び込んだ私を、先生は驚くこともなく、むしろ温かく迎え入れてくださいました。そのときの柔和な笑顔

と、どんな学生にも門戸を開いてくださる寛容なお人柄が、今も鮮明に思い出されます。

先生は、パーソナルファイナンス学会（前消費者金融サービス研究学会）の創立メンバーの一人として、日本の金融・投資教育の発展に尽力されました。単なる学問の探求にとどまらず、金融市場の在り方を広く見詰め、その課題を鋭く指摘しながら、常に未来を見据えた提言を行ってこられました。先生の発する言葉は鋭くも温かいものでした。先生のご著書『マネー千夜一夜－カネの魅力には勝てない』は、その思想を象徴する一冊でした。金融の世界を単なる損得の話ではなく、社会や人間の営みとして描き出し、カネの持つ力と危うさを、ユーモアを交えながらも深く洞

察されていました。私が現在、人間行動の立場から経営工学を研究する柱となっております。また金融市場の変動に翻弄される現代において、この本が示した知恵と洞察は、今なお生き続けていると思います。

先生の金融教育にかける情熱は、生涯衰えることがありませんでした。学問と実践の架け橋となることを使命とし、後進の指導に心を尽くされました。その姿勢に触れた私たちは、先生から学んだことを次世代へと受け継いでいく責務を感じています。

杉江先生、本当にありがとうございました。先生の言葉、教え、そして情熱は、これからも私たちの心の中に生き続けます。心よりご冥福をお祈り申し上げます。



Web ジャーナル

『パーソナルファイナンス研究』No.11 発行に向けて編集中！

【掲載論文紹介】

招待論文

「消費者金融市場から分化したヤミ金融市場に関する研究」
堂下 浩（東京情報大学）

査読付論文

「ソーシャルレンディング産業における企業不祥事とその影響」
藤原七重（千葉商科大学）

査読付論文

「起業の阻害要因と参照点の移動」
中西孝平（鹿児島国際大学）

2025－2027 年度理事選挙 投票ありがとうございました

2025年2月17日消印有効まで受け付けてお

りました投票を締め切らせていただきました。ご協力ありがとうございました。開票結果については近く公表いたします。

リエゾンオフィスより

* ご所属やご住所、メールアドレスの変更がございましたら、リエゾンオフィスまでお知らせください。

* 新規入会者をご紹介ください。PF 研究を広く協働してまいりたいと存じます。よろしく願いいたします。

* JAPF News は記事中すべて敬称略としております。

JAPF News 第 49 号
発行日：2025.2.25
発行：パーソナルファイナンス学会
監修：国際交流・広報委員長
山本崇雄（神奈川大学）
編集：リエゾンオフィス
【業務受託】(株)国際ビジネス研究センター
〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町 518
司ビル 3F ☎ 03-5273-0473